

## オレたちバブル入行組 池井戸潤

TBS テレビ「日曜劇場『半沢直樹』」  
2013年7月7日（日）スタート

原作発売日：2007/12/6



----- 「いい男」がテーマの読書感想文 -----  
銀行村や会社村で生き残る男

バブル崩壊の後、金融庁から業務改善命令が出たので、銀行本部は融資額を増やすよう支店にハッパをかけた。今時貸せるのは、万年赤字先か問題をかかえている中小零細企業ばかり。

そんな中で、浅野支店長がとっかかりをつけた西大阪スチールへの融資話が出てきた。「担保なしで5億円の融資」案件を明朝までに稟議を上げるようにとの指示が出て、緊急稟議が作成された。緊急という大義名分のもと、主人公の半沢融資課長のチェックが終わらないうちに、浅野支店長が決裁をくだした。

忙しい時に、緊急案件が飛び込むのは世の常。担当者が、出来る出来ないに関係なく、「納期までに何とかしろ」という一方通行の指示も世の常。出来なかつたら、減給、降格となるのも世の常。

しばらくして、西大阪スチールの粉飾決算が明るみにになって、責任の押し付け合いが始まることになる。半沢融資課長は、与信判断をおざなりにしたとして誹りを受けるが、自分だけに非があるわけではないと抵抗するとともに、粉飾決算の解明と債券回収に挑む。

「手柄は自分のもの、失敗は部下のせい」と涼しい顔の上司も世の常。

そして、ついに、決定的な証拠を見つける。

半沢融資課長が匿名で出したメールの場面が、痛快だ。

「——あなたの秘密、知ってしまいました。五千万円ももらったのね。いいのかな、支店長さんがこんなことして」

このネタを使って、最終的に、半沢融資課長は、営業本部の次長職に栄転してしまう。

学校で教わった価値観「ウソをついてはいけない。人の嫌がることをしてはいけない。清く正しく美しく」は、銀行や会社では建前にすぎない。失敗や弱みを握られた人が沈んでいく。病気や事故に遭遇した人も沈んでいく。結局、会社は弱肉強食の世界。半沢課長が、苦境から浮上できたのは、彼を信頼する人たちが、しっかり協力してくれたからである。彼は、人と固い絆を保てる男だったからだ。

池井戸潤原作のドラマで思い出すのは、「鉄の骨」。

NHK 土曜ドラマ「鉄の骨」  
2010年7月3日（土）[総合]夜9時スタート。

大手ゼネコンの代表者が集まり、公共事業の割り振りを調整する「談合」がテーマとなっている。

